



東北大学

東 北 大 学

流体科学研究所におけるポリ塩化ビフェニル付着容器（SUS製箱）の
誤廃棄について（お詫びとご報告）

この度、本学流体科学研究所におきまして、ポリ塩化ビフェニル（以下「PCB」という。）付着容器（ステンレス鋼（以下「SUS」という。）製箱）1箱を誤って廃棄していたことが判明しましたので、概要について下記のとおりご報告させていただきます。

市民の皆様及び関係者の皆様にはご心配とご迷惑をおかけし、心からお詫び申し上げます。東北大学としては、今後このような過ちを起ささないよう再発防止に努め、より一層の安全対策を講じてまいります。引き続きのご支援とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

1. 経緯

流体科学研究所PCB汚染物保管場所にて金属製容器6箱に收容し保管していたPCB廃棄物（安定器84台、464.6Kg）を平成26年2月にドラム缶2台に移し替えを行い、金属製容器6箱は空き箱となりました。うち1箱について、PCB油が内部に付着していることが確認され、同容器をPCB廃棄物として保管を開始しました。

平成26年7月に不用品搬出を業者に依頼した際に汚染されていない容器5箱を処分すべきところ、誤ってPCB油が付着している容器（SUS製箱）1箱も廃棄していたことが平成28年7月26日に判明しました。このため、事実経過及び環境への影響等の調査を実施のうえ平成28年12月21日に仙台市へ報告しました。

なお、本件判明後、全学の管理状況を再点検・調査しましたが、同様の事例はございませんでした。

2. 誤廃棄したPCB付着容器の概要

- (1) 金属系汚染物（SUS製箱）1箱（10kg、40cm×40cm×30cm）
箱の内部（底部）にPCB油が付着
- (2) PCB油の量（推定）
約 8.4cc、10g

3. 環境等への影響

- (1) 収集運搬業者及び処分委託業者の作業工程はほぼ機械作業のため、運搬及び処分の過程で作業者がPCB油を体内に取り込む可能性は極めて低いことを確認しております。
- (2) ステンレス等非鉄金属のリサイクル処理は1200℃程度の高温により熔融されているため、処理の段階でPCBは無害化されたと考えられます。
- (3) 処分委託業者から流出する雨水排水系統は仙台市環境局、下水系統は仙台市建設局で水質検査を実施しておりPCBは検出されておりません。

以上のことから、人体と環境等への被害は現時点で確認されておらず、今後の影響も限りなく小さい

と思われませんが、引き続き注視して参ります。

4. 今後の対策

再発防止に向けて以下の項目を実施してまいります。

- (1) 各事業所の特別管理産業廃棄物管理責任者はもとより、本学の全職員に対してPCB廃棄物に関する関係法令の遵守徹底の注意喚起を行う。
- (2) PCB廃棄物の管理状況を再点検し、保管場所への立入禁止措置の徹底と、廃棄物についてはラベル等で明示するとともにワイヤーロープ等で施錠し誤って持ち出しすることのないよう必要な改善措置を行って安全管理対策の徹底を図る。
- (3) PCB廃棄物の定期点検について、本部施設部職員と各事業所の特別管理産業廃棄物管理責任者の相互確認体制を整備するなど点検方法と業務プロセスの見直しを図る。

(お問い合わせ先)

東北大学総務企画部広報課長

電話番号：022-217-4977